

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年  
2月3日  
第161号



## コダカラベンケイ (ベンケイソウ科)

今、温室の中で咲いています。マダガスカル原産、常緑多年草の多肉植物です。和名の由来は、葉の縁に子株をたくさんつけ、それがこぼれ落ちて繁殖することから。その名前から、子孫繁栄や子宝のお守りとして親しまれています。南アフリカでの民間薬として、全草を消炎、鎮痛を目的に使用されていたようですが、アメリカで本種の属名の「カラニコエ」の名称でサプリメント化され、糖尿病、ガン、高血圧、尿路感染症、精神疾患など、さまざまな宣伝文句で販売されています。強心配糖体アグリコンであるdaigremontianinを含み、毒性が気になりますが、有効性、毒性、どちらについても培養細胞、動物実験レベルでの報告はあるものの、臨床試験でのエビデンスは全くありません。

## ホトケノザ (シソ科)

第二圃場の休耕地に自然に生えています。薬用植物園として栽培している訳ではなく、勝手に生えていて通常は駆除する雑草です。和名の由来は、花の下の葉の形が仏像の台座に似ていることから。春の七草として知られる「ホトケノザ」はキク科のコオニタビラコという別の種で、その名の由来も同じ理由です。牧野富太郎は2つの「ホトケノザ」を整理するため、本種を「サンガイグサ」と呼ぶことを提唱しましたが、定着しませんでした。こちらのシソ科のホトケノザは、青臭く食用には向きません。全草が生薬、ホウガイソウ（宝蓋草）となり、清熱利湿、活血祛風を目的に、肝炎、黄疸、結核、高血圧、顔面神経麻痺、打撲痛などに使用するそうです。日本でも民間薬として、胃潰瘍や鎮痛を目的に使用されていたそうです。